



枝幸町立図書館

北海道で最初にできた公立図書館はどこでしょう？

函館？小樽？札幌？室蘭？

オホーツク海沿岸北部の枝幸町が最初！と知った時にはとても驚きました。

現在、札幌から枝幸へ向かう一番シンプルな方法は1日1往復の枝幸行き的高速バス「特急えさし号」です。札幌を11:30に出発して途中休憩を入れながら17:00に到着します。298kmの距離で高速道路は枝幸まではもちろんないので、途中から一般道を走行します。宗谷バスで完全予約制なのに自由席。トイレは付いています。

一般道を走行する道内の高速バスでもかなり長距離の部類でしょう。それでもトイレがあるだけマシ。ちなみにネットでこのバスは予約できません。

今年3月に刊行した『ドキュメント北海道路線バス』椎橋俊之著(筑摩書房刊)でこのバスの5時間に及ぶドライバーのご苦労を知ることができます。乗車する前に読んでおいたので、とても役に立ちました。

本書に掲載している道内の長距離バスでまだ1本だけ乗車していないバスがあります。これは年内に何とか乗車して制覇したいものです。

平成の大合併で2006年枝幸町と歌登町は一緒になりました。高速バスは枝幸町の前に歌登を通ります。あいにく今年3月末で歌登町の図書室が入っていた複合施設「歌登児童館・フォレストピアホール」が休館となってしまいました。児童書中心の所蔵だった図書室は2月末で閉鎖。3月3日から8日まで図書を町民に無料配布しました。ちなみに開館は1993年でした。

枝幸町は人口7000人ほどの町。昭和の時代、枝幸より北へ30キロほどの浜頓別町から国鉄興浜北線が走っていました。枝幸駅の跡地にはモニュメントがあります。この鉄道は、枝幸から南の雄武まで線路を繋げ、興部から雄武まで運転していた興浜南線と繋げる計画でした。しかし赤字線のため、全て廃止すると共に計画も無くなりました。今日オホーツク海沿岸を走る鉄道は釧網線だけとなり、寂しい限りです。

図書館は町の中心部にあるので訪問しやすいです。

では北海道でなぜ一番はじめてできた公立図書館なのか？

図書館の前に「米国隊日食観測記念の碑」という記念碑が置かれています。

1896(明治29)年、北海道特に枝幸で皆既日食が見られるということで世界各国から観測隊

が訪れ、アメリカの天文学者デビッド・トッド博士を隊長とする一行も観測に挑むのですが、悪天候で観測は失敗しました。

トッド博士が帰国の際、滞在中のお礼として住民からの要望にあわせて百科事典や文学書など 911 冊の本が送られてきました。1903(明治 36)年、道庁の認可を受けて北海道初の公共図書館が開設されたというのが経緯です。詳細は、2004 年枝幸町教育委員会が発行した『星霜 枝幸町立図書館創設百周年記念誌』に書かれています。

開館 120 周年記念にトッド博士の肖像をレーザー加工した木材パネルを館内で見ることが出来ます。そこには「Start911 Books → 69000Books」とも書かれています。

それほど広くない館内は2フロアあり、小さな展示があちこちに。私も図書館時代実施した「まだ一度も借りられていない本」展も行っていました。掘り出し物てんこ盛り。当館では 2024 年度登録した本からの選書です。

図書館入口には移動図書館「おおぞら号」が待機中。歌登地区も巡回しています。

オホーツク海沿岸の図書館めぐりはどこからスタートするかいつも異なります。稚内から南下することもあれば、紋別や女満別まで飛行機で入ってしまうコースもあります。今回の枝幸は少々レアケースかもしれません。

2025 年5月訪問

加藤 重男